## 日本口承文芸学会とわたし

## 飯倉 照平

ます。 うまく説明できませんでした。その補足をしておきたいと思いうまく説明できませんでした。その補足をしておきたいと思いている唯一の学会ですと発言したものの、すぐにはいきさつを大会の時、突然指名されて、日本口承文芸学会はわたしが入っ

う人も、大学や学会がきらいだと書いていました。)ていませんでした。(少し内実はちがいますが、南方熊楠とい茂夫さんも、竹内好さんも、学会がきらいらしく、どこにも入った人しが都立大中文の学生であったころ、先生であった松枝

関係のどの学会にも入らずにいました。なった時、それほど深く考えたわけではなくて、しばらく中国いくつかの出版社の仕事をへて、四十歳で都立大の教師に

ので、知り合いになれることがうれしかったからです。者で名前だけしか知らなかった人たちがたくさん参加しているもっと勉強したいという気持ちでしたし、いろんな分野の研究入会しました。口承文芸についてはほとんど無知でしたので、数年後に日本口承文芸学会ができた時には、声をかけられて

と思います)、わたしも理事になりました。学会の中国との交流は、中国の関係学会に大きな影響を与えた学会と中国との交流がはじまるころに(当時の日本口承文芸

れて、時には気の重くなることもありました。くことと就職することが直結するケースがふえたように感じらになりました。しかし、その一方で、この学会でも、論文を書を担当することが多くなり、ずいぶんいろんな会員と知り合いのちには理事になるたびに、昔とった杵ヅカで機関誌の仕事

自分の本職の方でも、民話ですぐれた論文を書くのはむつか自分の本職の方でも、民話ですぐれた論文を書くのはむつか務局を引きついで二十年ほどになります。会の活動には転変が務局を引きついで二十年ほどになります。会の活動には転変があって、最近はほそぼそと通信を出し、不定期の例会をやっているだけで、いささか頼りない状況におかれています。もう少いるだけで、いささか頼りない状況におかれています。もう少いるだけで、いささか頼りない状況におかれています。もう少いるだけで、いささか頼りない状況におかれています。

る現状では、口承文芸の研究にとっても、さまざまな分野の研る現状では、口承文芸の研究ますます実務的に再編成されていわってきた自分がばかばかしく思えることもあります。のびのびと研究をしているように見えて、こんなことにこだのびのびと研究をしているように見えて、こんなことにこだら、いまの若い人たちは、複数の学会をたくみに活用しながら、し元気な会にしなくてはと考えていますが。

(いいくら・しょうへい/中国民話の会)

うに思います。

究者が自由に交流できる場所が、いっそう重要になってくるよ